多くの人々に慕われる社長が築く急成長を続ける注目の建設会社

大阪府吹田市に拠点を置く総合建設会社『谷川』。ここ数年で大きく成長を遂げてきた会社だ。同社を牽引するのは、会社勤めをしていた時代に、個人的にお客様の仕事の手伝いをしたことが契機となり、同社を立ち上げたという林社長。本日はつまみ枝豆氏が同社を訪れ、人々の力になるべく日々奮闘している社長と、社長を支える重要人物の一人、平間営業部長のお二人にお話を伺った。

代表取締役
林 貴志

営業部長
平間 俊昭

TANIGAWA CO.,LTD.
株式会社 谷川

総合建設業（土木・建築・上下水道設計施工）
大阪府吹田市南正雀四丁目13番9号
URL：http://tanigawa.jp.net/

ゲスト
つまみ枝豆

――まずは林社長のこれまでの歩みから伺います。

（林）兄が土建会社を経営しており、16歳の時にそちらで勤め始めました。その後吹田にある工務店に入社。当初は現場監督として、最終的には常務まで務めさせていただきましたね。そちらで17年勤めた後は水道会社にお声掛けいただき、「水道の仕事を覚えるのも幅が広がっていいな」と考え転職。そちらでは7年間勤めました。

――その後、独立して『谷川』さんを始められて？

（林）いいえ。実は当社のルーツは水道会社勤務時代に生まれたんですよ。当時お客様から「やってほしい仕事がある」と依頼されたのですが、役所との折衝も必要な、少し手間のかかる仕事でした。社長に話したところ、「断ってくれ」という。それで最初はお断りしたのですが、そのうちまた連絡が入ってきて、「仕事はしなくてもいいから、役所や事務所の折衝についての知恵を貸してくれないか」と言われたのです。それでその方のお役に立ちたいと思い、会社には内緒で、無償奉仕のつもりでお手伝いしました。するとお客様が「次に頼む時に言いづらいから、お金を払わせてくれ」と。それで困って友人に相談したところ、「その仕事をするための会社を興せばいい」とアドバイスをいただきましてね。それで『谷川』をスタートさせました。その事業が順調に成長し、やがて私の給料の何倍も利益が出たことから、3年ほど前より勤めを辞めてこの会社一本で頑張っています。

――かなり特殊な形で始められた会社なのですね！ 現在の御社の事業はどのようなものなのでしょう。

（林）土木、建築、上下水道設計施工など、建設業を総合的に手掛けています。中でも水道工事の需要は高まっていまして、3年前は土木工事8、水道工事2ほどの割合だったのが、今では土木工事5、水道工事5くらいになりました。水道関連の業務について、計測から経営から様々な経験をさせて下さった前職の方々に感謝していますし、その他にも様々な方のお陰で今の当社があると思っています。

――これまでの経験が今に活きていますね。平間部長がこちらに入られた経緯と言いますと？

（平）知人の紹介で社長とお引き合わせいただき、お話しするうちに仕事に対する想いなどに及んでいきました。そしてそのお人柄に惹かれてご一緒させていただくことになったのです。社長は仕事を依頼されると日程的に厳しい時にも「断るのがつらい」と無理にでも引き受けようとされる方。そんな人情味ある社長を見て、この会社ならより強い気持ちで頑張っていけると思いましたし、同時に「この会社を大きくしたい」と考えました。

（林）彼が入社したのは当社が本格的に動き始めてから半年ほどした時のこと。彼の他にも4人のメンバーが、スタートの段階で当社に入ってくれました。まだ歴史のない会社で、私みたいな人間についてくれるというのですから、ありがたかったですね。今後一緒に事業を経営していくメンバーということで皆部長職からの待遇としましたし、収入面でもしっかり報いていきたいと思っています。

――なるほど……。社長が本当に周囲の方々を大切にされていることが窺えます。

（林）そうですね、社員も大事ですし妻も大事ですし友達も――変な話ですが、私は人の価値は生涯を閉じた時、葬式に何人来てくれるかで決まる、と思っているところがありまして。その時に自然と足を運んでくれるような、そんな関係性を皆と築いていきたいなと思うんですよ。

――私の師匠のビートたけしさんも同じことを言っていましたよ！ 慕われる人は皆同じようなことを考えるのでしょうか。お話も尽きませんが、最後に今後の展望を。

（平）私は会社に入社したというよりは「林組」に入ったと思っています（笑）。ですから今後も社長の力となり、夢を実現させるという想いで頑張って参ります。

（林）代表をやる以上は事業を大きくするのみです。私はコンピュータが好きですのでIT事業、あるいは飲食事業などを展開することも考えていますよ。当社は急ピッチで成長してきましたが、ここで足を止めるつもりはありません。このまま走り続け、テレビCMが打てるような会社にしたい。また部長クラスのメンバーの年収一千万円超えを早い内に実現したいですね。

▶▶▶「次も仕事を任せる」と言われるための何か

▼林社長は社員たちに対して、「相手の気持ちを掴む」ことを強く望む。図面通りに工事を行うのは当たり前。その上で、「『やっぱり次もお前のところに任せたいわ』と言われる何かを残せるように」とよく話しているそうだ。

▼誠心誠意仕事に打ち込むことも大事だが、できることは仕事以外でも見つかる。たとえば仕事相手とざっくばらんな話をする時にしっかりと耳を傾けるだけでも、相手に与える印象は全然違ってくるはず――「私自身がそういう心がけを大事にこれまでやってきた。だから皆にも、そうした“相手の気持ちを掴む”という意識を持ってほしい」と、社長は笑って話してくれた。

▼良質な仕事を求めるだけでなく、常に人の心に何かを留めるような行動を模索する。働く人全てにとってヒントとなる考え方と言えないだろうか。

「林社長はパソコンにも精通しておられるそう。まだパソコンがさほど普及していなかった時代にCADで図面を作成し、役所の方に『こんな最先端の技術を！』と驚かれ、業界で一目置かれたこともあったそうですよ。社長の多才さが窺えるエピソードですね！」

つまみ枝豆（タレント）

校正用 COPY 転載厳禁
校正用 COPY 転載厳禁

㈱谷川
代表取締役

林 貴志

PICK UP
THE PERSON

KEY WORD

好漢
— koukan —

林社長は仕事が来ると、多忙であっても「断るのが心苦しい」と引き受ける人物だ。
そしてとにかく皆に役立たんとし、その姿勢で周囲からの絶大な信頼を得てきた。
社長は、こうした「仕事先の人々」だけを大切にしているわけではない。
奥様や社員の人たち、仲間や友人――全てかけがえのない存在だ。
「変な話、生涯を閉じた時に『葬式に行きたい』と思ってもらえるような、
そんな人間でありたいし、関係を皆と築きたいんですよ」。
これはつまり、損得なく一緒に居て心地良い相手でありたい、ということだろう。
その言葉に、社長が人々に慕われる理由の一端が垣間見えた。

●対談記事は　・　頁に掲載

**「生涯を閉じた時『葬式に行こう』と思われる。
そんな関係を周囲と築いていきたい」**

校正用 COPY 転載厳禁